

# 金井高校に着任して

## ～小谷新校長先生インタビュー～

この4月に、前任の後藤昌英先生に代わって着任された、小谷昭彦・新校長先生。着任されて約3カ月となる6月下旬、校長室にお伺いして、金井高校の印象、校長としての思いなどについてインタビューをさせていただきました。【聞き手：森】



### 小谷昭彦先生プロフィール

令和6(2024)年4月1日、  
金井高等学校第20代校長  
として、県立スポーツセン  
ターより着任。  
保健体育科  
専門は陸上競技  
昭和42(1967)年生まれ  
56歳

—本日はお忙しい中、同窓会のインタビューに応じていただきありがとうございます。よろしくお願いいたします。

小谷. こちらこそよろしくお願いいたします。

—さて、4月にご着任されてから約3カ月になりますが、金井生の印象はいかがでしょう。

小谷. まず4月の始業式で、整列の様子や静かに話を聞く態度に驚きました。しかも、単におとなしく話を聞いている、というのではなく、話者にしっかりと向き合って話の内容に集中する、ということが自然にできている。先日の体育祭でも、競技への積極的な取り組みや、運営の生徒の動き、開会式・閉会式での整然とした様子などから、場に応じた切替えや、やるべきことに真剣に向き合う態度が伺え、良い学校に来たな、と思いました。

—ご着任以前に金井高校のことはご存じでしたか。もし、金井高校に関わるエピソードなどありましたら伺わせてください。

小谷. 県立スポーツセンター(旧県立体育センター)などの行政機関に在籍していた期間以外は、すべて横須賀・三浦地区の高校でしたので、金井高校と直接かかわるような場面はありませんでした。が、私は専門が陸上競技の短距離で、高校でもずっと陸上競技部の顧問をしていましたので、金井高校でも長く陸上競技部を指導されていた竹澤安博先生には、先生の逗葉高校時代から大変お世話になりました。また、金井高校陸上競技部のユニフォームはオレンジ色、というイメージは当時からあります。ちなみに、同窓会の子安前会長とは、私が県のスポーツ課に着任した際、ちょうど入れ替わりでした。

——これまで教員として大切にされてきたことがありましたら、伺わせてください。

小谷. 生徒はそれぞれですから、金井高校に入学してきた理由もそれぞれだと思いますが、「たかが3年、されど3年」です。わずか3年間ではありますが、高校時代の3年間は人生の中のバックボーンになる大切な時期だと思っています。ひとりひとりの生徒が、学校生活の中で取り組んだことを意義あるものとして、高校時代がのちに誇れる3年間になるよう、生徒たちを指導してきたつもりです。

——では、校長として金井高校の生徒に望むことをお聞かせください。

小谷. さきほど始業式や体育祭での印象はお話ししましたが、もちろん授業に向かう姿勢もしっかりしていて、生徒の力を引き出したり、生かしたりしようとする教員の指導によく応えていると感じます。しかし、欲を言えば、もう少し積極性というか、自分自身を高める意欲をもって学校生活に臨んで欲しいと思います。授業で言えば、教員の要求に応えるだけでなく、もっと主体的に教材に向き合う、行事で言えば、教員の指示がなくても中心となって運営に携わり、教員はフォローするだけで十分な体制までもっていく、といったところでしょうか。私がこれまで見てきた金井生であれば、部活動や委員会活動なども含め、十分にその力はあると思っています。教員はいつでも背中を押す準備はできています。生徒の皆さんにはあとちょっとの勇気を持って、目の前のことに取り組んでほしいと思います。

——今春の入学生が50期生ということで、いよいよ創立50周年が間近となってきています。来年度、記念式典をはじめとする50周年記念事業に臨む校長として、同窓会の皆さんへメッセージをお願いします。

小谷. 同じような時期に開校した県立高校が多いとはいえ、それでも50周年を迎えることには大きな意義があると考えています。この間、学校に求められるものが年々変化していく中、多くの卒業生や教職員の皆様が協力し、常に時代のニーズに合わせた学校づくりを行ってくださった成果が今の金井高校なのだと思います。そうして諸先輩方から継承され、培われてきた伝統を踏まえ、金井高校をより存在感のある学校にできるよう、職員一同頑張っていきたいと考えています。50周年を迎えるにあたり、是非、卒業生の皆様のご理解、ご支援を賜りたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

——本日は貴重なお時間をありがとうございました。